

中央公民館だより



夢広がる守門公民館

守門公民館長 横山 治隆

守門公民館は、四十一年間お世話になった守門開発センターから、守門庁舎の二、三階へ四月に移転します。部屋数も増え、多様な使い方ができるのではな
いかと夢も広がります。



この守門庁舎の三階には学童保育があり、小・中学校も近いので子供たちも利用しやすく、また、庁舎や郵便局に来られる方々も利用しやすくなると思います。

二階には公民館事務室があり、最も広い部屋は図書室です。蔵書数も今まで以上に増やせましたし、ソファや机もあり、くつろいで読書を楽しんだり、調べ物もしやすくなったりしています。

学習室は申込みの必要もなく、もちろん冷暖房完備ですので、受験勉強や普段の学習に向いています。

ロビーや和室は、昔話や紙芝居、子育て相談等々で幼児や保護者の集まりなどにも利用できます。

旧村長室はピアノを置き、コーラス等もできます。旧村長控え室は「たぶろう美術館」の展示室ですが、皆さんの写真や絵画など各種作品の展示室としても利用できます。積極的に作品発表をして欲しいと考えます。

三階は、カーペット敷と、リノリウム敷の広い部屋が二つあり、また、少し広めの会議室もあって芸能発表会や写真会、各種会議、集会、ダンス等に応じられます。

守門公民館は、各種教室を新たに計画していますし、サークル活動等に部屋を貸し出します。今まで以上に活用を進め、ご自分の夢を広げていって欲しいと願っています。

応援します！サークルへの道！

公民館講座をステップに、自主サークルの設立。公民館としてこれほどうれしいことはありません。いざ、スタートするには同じ目的に向かう素晴らしい仲間が必要です。今回はそんな自主サークルへの道を歩む3団体を紹介します。

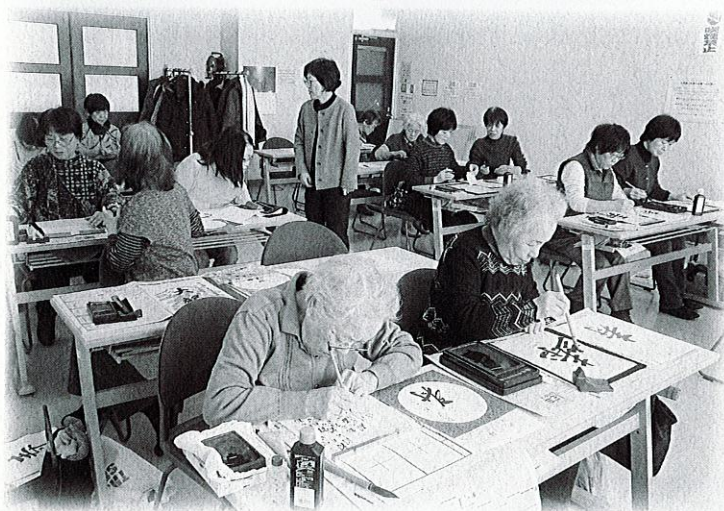
小出北部公民館「初心者書道教室」から「サークル活動への道」かすみ草書道サークル

七日市新田 小島佳子



定年退職後、「初心者書道教室」に初めて参加しました。時間がきたらやってみたくてずっと思っていたので、迷わず申込みをしたのです。

しかし、中学生以来初めて筆をとったわけですから、先生の素晴らしい手本を見ても、思うように手が動きません。周囲を見渡せば達筆なばかり。少し落ち込みながらも、数枚書くうちにあの頃の懐かしさがよみがえり、楽しさも溢れてきました。そして、回を重ねるたびに書道教室が楽しみなようになってきたのです。



行書・楷書・かな文字など、手本の中に折り込まれているので、自然といろんな書が経験できます。私はかな文字が苦手で思うように書けないのですが、そんな時でもよい所を見つけ褒めてくださる先生のおかげで、少しずつ自信もつき、意欲も出てきました。いくつになっても褒められるとうれしいものです。書道教室も終回を迎え、「もっと続けたい」「この雰囲気で大切にしたい」と願う仲間が集まり、新たにサークルを作ることになりました。講師先生のイメージから、「かすみ草書道サークル」と命名し、4月よりメンバー16名で新しいスタートを切ります。「自分らしい心の書を求めて」



広神陶芸教室

自立に向けて

広神の陶芸教室は、講師の名前から「南波教室」として、公民館講座の中でも長年人気の教室です。

平成二十五年度は、受講生二十六人、月二回、木曜日に開催してきました。

現在、自主運営に向けて、参加者の皆さんと話し合い、準備しています。

組織の構築や会計など、まず、自分達にできることをやってみながら、運営全般に携わっていただきたいと思います。

お互いに協力し合いながら、「陶芸、焼きものの面白さ」を味わい、仲間との交流を通して楽しい会をつくってもらいたいと思います。

また、広神の窯は、近在にはない大きさを有しており、この施設を有効に活用してもらうために、ぜひ大作にも挑戦してもらいたいと思います。

今後の活躍に期待します。



入広瀬公民館「陶芸教室」から

自主サークル「どんぐりの会」誕生!

「どんぐりの会」は、平成十九年度公民館主催の「陶芸教室」を受講したメンバーが中心となり、活動を始めたサークルです。「もっと陶芸を続けてみたい」と、講師の平瀬幸一先生の協力を得て、結成されました。講師のきめ細かなご指導のもと、技術の向上を目指すだけでなく、メンバーの親睦を兼ね、お茶やおしゃべりの時間があつたりと、和気あいあいと活動していらっしゃいます。

『自分の手で何かを作るといえるのは楽しいものです。作っている時は無心になれます。釉薬などの色合いも、焼いてみるまで仕上がりがどうなっているかわかりません。窯出しの時はドキドキしながらも一番楽しく幸せな瞬間です。うまくできていなくても、自分で作った作品には愛着がわきます。日常の生活の中で使う喜びも生まれます。(どんぐりの会会員…談)』

日々の忙しさから離れ、心穏やかに陶芸に親しむ、そんな時間を、楽しく笑いのたえない「どんぐりの会」のメンバーと、一緒に過ごしてみませんか？ きつとよい気分転換になると思っています。興味のある方は、気軽に見学にいらっしゃってください。





うおぬま市民大学 「笑いで世相を斬る」 ありがとう作文優秀発表会

2月16日(日) 午後1時30分～ 小出郷文化会館

今年3回目の「うおぬま市民大学」では、立川一門の真打ち立川談慶 師匠をお迎えし開催しました。今回は「感謝」をテーマに「笑いで世相を斬る」と題して、講演していただきました。

談慶師匠は、大学卒業後、3年間サラリーマンとして働いた後に、一転落語家を目指しました。「談志師匠の修行は本当に厳しかった。発する言葉には深い意味があり、その言葉を感謝の心で受け取ること自分が成長できた」と、談志師匠との修行時代のお話がありました。また「落語は、たった一人の噺家の話に、聞き手が話

の先々を予測し、想像できるところが魅力」と、落語の楽しみ方についてもお話いただきました。その後、落語を2席演じていただき、大勢の観客から終始、笑い声が絶えませんでした。

また、講演会に先立ち、「第9回ありがとう作文コンクール」の優秀賞の発表会と表彰式を行いました。ありがとう作文コンクールは、人への感謝の気持ちを感じとれる子どもに育ってほしいという願いから取り組んでいます。市内と友好自治体の足立区の小学生から参加いただき、今年も1,241作品の応募があり、優秀賞4作品、入選賞10作品が選ばれました。発表会では、優秀賞を受賞した3人が発表を行いました。登校中挨拶をしてくれた「見守りたいのおばさん」、毎日常事をこなす「お母さん」、色々な事を教えてくれる「本」へと、様々な視点での日頃の感謝の言葉の発表に、観客からは大きな拍手が送られました。



石川雲蝶生誕200周年記念

「雲蝶さん入門講座」

魚沼の宝、再発見

「日本のミケランジェロ」とも言われる彫刻家、石川雲蝶をご存知でしょうか。幕末から明治初期、新潟県内を中心に活躍し、当市にも大浦の西福寺、根小屋の永林寺に数多くの作品が残っています。

2月23日(日)、広神コミュニティセンターを会場に、新潟県民俗学会理事の高橋郁丸先生を講師に迎え、「雲蝶さん入門講座」と題して講演会を開催しました。

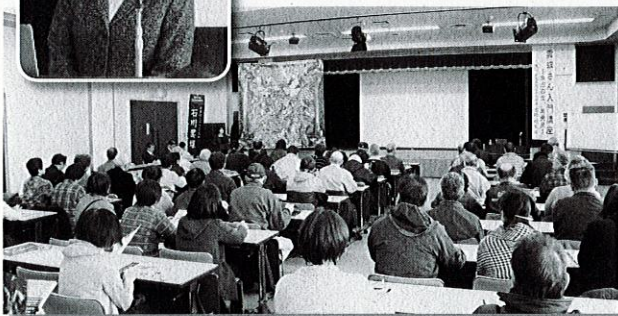
講演では、江戸に生まれ三条に移り住んだ雲蝶の足跡に加え、酒や博打にまつわる逸話、住職や金物商人といった関わりの深い人々が紹介されました。また、授乳する天女のような珍しいデザインを採り入れたり、床に技巧的な埋木細工を施したり、鍔絵(漆喰のレリーフ)や石工も手掛けるなど、作品の特徴と見どころの解説がありました。

会場いっぱいのお客様からたくさんの質問をいただき、雲蝶に寄せられる関心の高さを感じました。

今年は石川雲蝶の生誕200周年にあたり、様々なイベントが企画されています。今後ますます注目ください。



郁丸様



本を寄贈いただきました

「大漢和辞典」十三巻セット

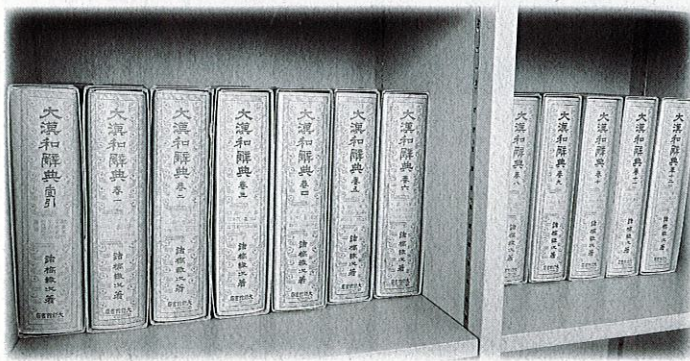
市内大沢在住の遠藤政美さんより、「市の教育のために使ってほしい」ということで、「大漢和辞典」十三巻セットを市へご寄贈いただきました。

「大漢和辞典」は新潟県旧下田村出身で漢学者の諸橋轍次が編纂した世界最大の漢和辞典です。

ご寄贈いただいた辞典は、湯之谷公民館三階の湯之谷中学校の図書室へ収蔵し、活用する予定です。



遠藤政美さん(左)より星教育長へ手渡されました



地区公民館の活動報告

伊米ヶ崎公民館

「しめ縄作り教室に参加して」

中島新田 小幡 一男



毎年各地の文化祭を鑑賞させていたのだが「これがあの人の作品か!」とびつくりする素晴らしい展示に出会う。その多くは公民館や生涯学習講座受講生の出席であり、日常の中に学ぶ真摯な姿を想い、生け花や陶芸、押し花にちぎり絵等、絵画や写真と並んでいる作品を堪能し、来年は何か受講してみようと思いつつも、その場限りで過ごしてしまっていた。

昨年末、伊米ヶ崎公民館で開催された「しめ縄作り教室」に誘いを受けて参加した。懇切丁寧な講師の手ほどきで、皆さんが三本の棒締めを作り上げた。しめ縄は、七五三縄、注連縄、標縄なども書くそうだが、神聖な場所を区画し、悪神が内に入らないようにするために、我が家も神棚、玄関に飾り付けて新年を迎えた。

公民館行事や生涯学習という堅苦しい感じだが、参加したら知人もおり、楽しいひとときであった。

今秋は魚沼市誕生十周年、中越地震から十年という節目の年。まもなく新年度の講座受講生募集の頃。思い切って講座に参加してみよう。



参加者の声



湯之谷公民館

「ふるさと再発見講座」に参加して

井口新田 高橋 静枝



公民館の長寿大学に入学して十年位になりました。その間色々なところに見学に行っても楽しい楽しまました。24年・25年度は、市内の寺院を訪ね、ご住職より山の歴史やご本尊様の由来、建物の中に施されている彫刻の説明をお聞きした後に、拝観させていただき、普段は目にする事のない立派な彫物に目を見張り、もう一度足を運びたい念に駆られました。見学が終わるとお茶とおいしいお菓子の「お・も・て・な・し」にあずかり、申し訳なく思いました。

昨年度は乗り合いで行き、今年度はバスを市より配車していただき、口コミで回を重ねるたびに大勢になり、皆さん関心があったようでした。企画してくださった館長さん、事務局の方、お骨折りました。お蔭様で沢山のことを見、聞きまして楽しんでいただきうれしく思っております。今年度は「石川雲蝶生誕二百周年」。市でも沢山の行事や催しがあると思うので楽しみにしています。

健康に留意しながらできる限り参加したいと心待ちにしています。「長寿大学」を皆で楽しみましょう。



だんだん ども

大芋川の手作りこんにやく

昨年十二月七日、大芋川集落センターで開催された料理教室。テーマは「コンニャク造り」。造っている現場に行き、直接、手ほどきを受けようというものです。大勢が押しかけ、迷惑をかけたにもかかわらず、快く引き受けていただき、ありがとうございました。更に、地元の鯉料理や漬物なども準備していただき、重ねて感謝です。



地元ならではの味に、参加者一同、舌鼓を打ち、最高の料理教室になりました。また、中越地震以後の様子や、コンニャク造りが今日に至るまでの苦労話も聞くことができ、皆さんの熱い思いを感じる事ができました。大芋川の皆さん、ありがとうございました。また、教えてくださり、(松田光正)

表紙の目

昨年の十二月一日、懐かしい顔ぶれが集い閉館セレモニーが行われました。守門保育園・幼稚園児によるかわいらしい発表もありました。

編集兼発行人 魚沼市中央公民館長 菲澤 文隆